



12年ぶりの大運動会の中・歓声を背に受けて！

島のひかり ホームページアドレス
<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959⑦0072
 印刷・(株)才津印刷所

いのちの光

主任司祭 岩崎 晋吾

長崎の夜景は日本三大夜景としてとても美しい。

二〇一二年夜景サミットIN長崎において長崎の夜景は新世界三大夜景にも選ばれた。

先日病人訪問の際にカメラを趣味にしているという孫が撮った長崎の夜景を拝見させていただいたが、まるでクリスマスツリーのように夜景が美しく故郷の夜の良さを改めて思い知った。写真は「稲佐山から」の撮影写真だった。

私は長崎市内で生まれ育った実家は稲佐山の麓にあった。(現在は浦上)長崎市は浦上川と長崎港を挟んで山の斜面に家が建ち並ぶ坂の街並みである。昔、稲佐山側に住む人々は稲佐橋を渡り向こうへ渡る事を「まちに行く」と言っていた。こちら側は田舎で向こう側が町だったのだ。おのぼりさんのような気持ちで向こう岸のにぎやかな街へ

行くのを楽しみにしていたのを思い出す。

世界三大夜景に選ばれたのは「稲佐山から」見た向こう岸の世界の話である。つまり「まち」の方の夜景ということになる。他方稲佐山側は高齢化と人口減少で空き家が随分と増えており、生活の灯が消えていつている。向こう側の世界の夜景とは無縁のような気もしている。

だが、稲佐山の麓には私の出身教会である飽の浦教会があり、人口減少の中、今も元気に活動している。毎月送られてくる教会新聞と仲間の情報で闇に輝く光となっている事を知りうれしい。

さて、奥浦地区も高齢化と人口減少が進み空き家が八〇を越えていると聞いた。生活の灯が徐々に消えていく中、いのちの光を輝かせたいと思っている。「おくら夢のまちづくり計画」は進んでいる。教会も共に街づくり、人間づくりの為に協力したい。

新年の挨拶



典礼委員長
小田 哲也

明けましておめでとうござい
ます。昨年は典礼奉仕にご協力
ありがとうございました。本年
もどうぞよろしくお願い致します。
さて私事ではございますが、
新年を迎え、思うことを少し述
べてみたいと思います。今年で
五島に帰郷して、早や十一年目
を迎えました。只今女の子ばかり
ですが、三人の子宝に恵まれ、
皆元気に育っています。そのた
め生活もすっかり子供中心とな
り、皆様もそうだと思いますが、
もっぱら神様には子供の安全・
成長を祈るようになりました。
子供を見ながら、自分達がこの
子を守っていかねばと思おう
ほど、愛情を自覚するようにな
り、最後には神様にすべて任せ、
結果を待つ、そういう時間を持
つことが増え、そしてそれに合
わせて神様に感謝することが多
くなりました。家族が多いとそ
れだけ神様に頼ることが多く、

意識する時間が増えるのだと思
います。私たちも神の子である
以上、きつといつも神様から深
い愛情が注がれているのでしょ
う。

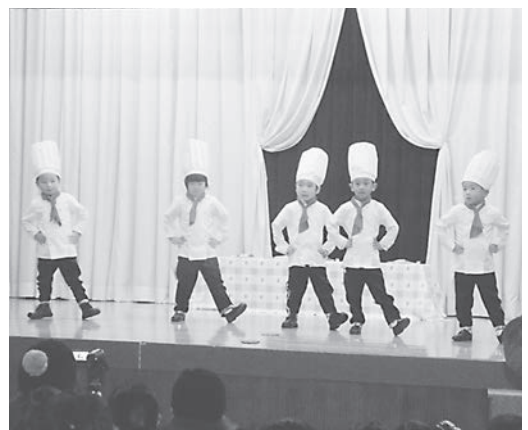
また、都会から離れてこの豊
かな自然の中で生活することは、
本当に自分にとって性に合っ
ているんだなあと感じています。
六歳に神戸から移住し、十二歳
には長崎の神学校に入学したた
め、どっぷり五島で生活したの
は六年間ほどですが、何故かし
ら、この地で落ち着く自分を感
じます。私の先祖は代々五島で
生活していたようなので、その
血が流れているからでしょうか。
教会は、シノドスを通して、
司祭不足や若者の教会離れ、家
庭での信仰生活等、様々な問題
を与えています。個人的には、
迫害を乗り越えて信仰を守り通
した先祖の血がわたしたちには、
流れており、また常にわたした
ちには、神様からの深い愛情が
注がれています。それならきつ
と最後には神様にすべてを任せ
ていけば、必ず信仰の光が失わ
れることはないと思う今日この
頃です。

クリスマスおめでとう

平和のぼら保育園では、十二
月十三日土曜日、ひと足早くク
リスマスを祝って、クリスマス
おゆうぎ会がありました。

幼な子イエスさまを迎えるク
リスマスについて、年長児によ
る聖劇「ほしのよる」に始まり
神父様のお話がありました。

それから、お祝いの出しもの
として、小さいクラスのつぼみ
組は「トトトのうた」「キノコ
ズンズズン」「ケッコーしあ
わせロボケ
ロ」、「おお
きなかぶ」、
三才児すみ
れ組は、劇
「みにくいあ
ひるの子」、
遊戯「チャ
イナであい
さつ」「こど
も八木節」、
四才児ひま
わり組は、



劇「泣いた赤鬼」、遊戯「スパ
ゲティ de ボンジュール」、年長
児のハンドベル、遊戯「人魚の
フラダンス」「もえろ、マダド
ー」 「長崎のちようちようさん」
「城山の華」と会場の皆様を楽
しませてくれました。園児たち
も暖かい笑顔と熱い眼差し、そ
して拍手に包まれ、それぞれに
自分の力を十分に発揮すること
ができたようです。待っていた
サンタさんも牛さんトナカイさ
んと一緒にやってくれて、うれ
しいプレゼントをもらい笑顔の
子供たちでした。

2015年

私たちの新たな決意

ふり返ってみて



鍋内 恵美

「メ〜」未成年がスタート。四十八歳、人生半分封切りです。まだまだ若いと思っていました。が、しだいに「よいしょ」「あたたたっ。」と思わず口に出してしまう今日この頃です。一人で苦笑いしてしまいます。一周目は楽しかった小学生時代。シスターとのけいこ、聖歌隊が思い出されます。教会の周りの土手はいい遊び場で、けいこの前は缶蹴りをしてよく遊びました。二週目は高校と大学の二回の受験。眠さと戦いながら勉強しました。五島を出て、広島で経験したことは今でも財産になっています。三週目は念願の教員試験に合格し、子ども達と充実した生活を送りました。そして四週目。転職のたびに船での別れをしてきましたが、五島へ落ち着くこととなります。振り返ると、いろいろな場所でたくさんの人と出会い、その人達に助けられてきました。感謝です。ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

何事も前向きに



赤尾 淳

新年あけまして、おめでとうございます。まだまだ先のことだと思っておりました「還暦」この二文字があらこちらにガタの来た身に心に、強い衝撃を覚える新年を迎えました。確かに私、中高年の部類に入りますと近くの記憶より遠い記憶が多く懐かしい思いあり。木造の旧浦頭教会がありました。が堂崎で松の枝に弁当つり下げ臨んだ黙想会、松下佐吉神父様の講話や、初聖体も行われました。クリスマス・イブのミサも堂崎であり、あずかるうと歩いて行く途中、舗装もされてない道で水溜りに落ち新しく買い揃えてもらった靴が台なしになり子供ごころに「良かことばしよ」とに神様はなんば見てるんだらう」と思ったこともありました。

またミサ最中に、昼間の仕事の疲れもあるのか、あるいは多少お酒を飲まれたのか、お祈りや、聖歌の合の手。にイビキのお父さん達がいました。

子供達もクスクスと笑い顔があり、昭和の時代の一コマです。このような素朴でほのぼのとした地域に子供の頃を過ごし、気がつけばもうこの、年令！さしたる、人に誇れるものは無い私、大切にしたい妻や子供が健康でいてくれることにまず感謝。今日まで生かして頂いてます
 “神に感謝”
 青春時代の忘れものを取り戻す意気込みで、何事も前向きに行きたいものです。



小教区四十五周年の歩み

(二〇一一年からの続き)

マルマン・ペループロンズ像設置、中村長八神父関連など資料館展示資料の充実、百周年記念冊子発行など眞浦神父様を中心に事業を進めてきました。

当日は久賀島信徒による大漁旗をなびかせた海上パレードのなか、高見三明大司教、シエガレパリ外国宣教会管区長をお迎えしての盛大な式典となりました。

またこの年十一月一二日には、ペトロ岐部と一八七殉教者の列福式が長崎ビッグNスタジアムで行われ、小教区からも一〇六名が参列しました。

二〇一〇年二月に、駐日教皇大使カステッロ大司教が長崎での二六聖人殉教記念ミサ後、堂崎天主堂や浦頭教会を訪問されました。浦頭では、「平和のぼら」の子供たちが、元気な笑顔で大使をお迎えしました。

翌年の二〇一一年、堂崎百周



45周年記念ミサ

年事業など実現された眞浦神父様が長崎カトリック神学院校長として転任され、長崎飽ノ浦出身の岩崎晋吾神父様が大村水主町教会より着任されました。

今年で四年目を迎える神父様は地域の方々との交流を深めつつ、福祉活動など積極的に司牧活動を進めておられます。

二〇一三年には小教区に福祉部会が生まれ、ミサに与る事が困難な高齢者を車で送迎しての福祉ミサや、子供たちの登校に合わせた立哨活動が続いています。また同年一二月には以前より行われていた教会イルミネーションがLED化され、デザインも若手有志のアイデアを活かした斬新な明かりになりました。そして二〇一四年四月に四十五周年の目玉となる教会水洗トイレも完成し、九月二一日四五周年式典の日を迎えております。

尚、現在までの浦頭教区出身司祭は中村長八神父様から数えて一八名、ブラザー六名であり、シスターは初代慈恵院長浜崎ツイさんから数えて七九名のシスターが誕生しています。共同体の一致とお祈りの賜物です。

小教区四五年の歩みは、建物の建設、改修の歴史であると同時に共同体組織の設立と維持の歴史でした。そこには物心両面にわたり苦難の道を共にした歴代主任神父様方と教会役員、信

徒一同の尊い汗が刻まれています。喜びや感動を共に味わいつつも、時に軋轢や諍いもあった事でしょう。

四五年間の全ての経験や歴史から学びつつ、最後に求められる「キリストの歩みにならう」という原点に立ち返る事が何より重要だと思えます。今回の記念事業をその一里塚にできれば事業の意義はより高まる事でしょう。



45周年祝賀会

ボリビア募金始まる!

貧富の格差の激しいボリビア共和国では、障害者は捨てられるケースが多く、浜泊地区出身の富上成美さんが勤める・障害者自立支援施設「サン・マルティンの家」でも三分の一は孤児・自立出来なければ物乞いという道が見えてくる中で、の支援は、障害者の心に寄り添い、彼等と共に生きる意志の上に成り立っている。そのサポートが今、浦頭教会でも募金という形で始まる。



サン・マルティンの家(広場にて)

富上成美さんプロフィール

H12年4月～H17年3月 (5年間) 北九州市
 H17年(2005) } ボリビア
 H18年(2006) }
 H19年(2007) ボランティア→ふじ学園・育成園 (1ヶ月ずつ) 魚屋の店員として…
 H20年(2008) }
 H21年(2009) } 育成園勤務
 H22年(2010) }
 H23年(2011) }
 H24年(2012) } ボリビア
 H25年(2013) }
 H26年 }
 成美さんは、福岡の聖母訪問会に入り、まわりのシスターの方の指導、特にsr.ステラ西田靖子さんの影響を受け、今があります。

ミカエル大浦仁助氏 帰天



佐世保在住で五島(浦頭)出身でありました、大浦仁助氏は昨年十月十二日、九十九歳の生涯で神様のもとへ召されました。葬儀、告別式が十四日午後一時より、三浦町教会で中村倫明主任神父様を始め、生前お付合頂いていた、平野勇神父様(鹿子前教会)、崎浜宏美神父様(聖母の騎士学園学校長)による合同司式によって執り行なわれ、聖堂内は最後のお別れを惜しむ参列者でいっぱいだった。

大浦さんは三男二女の次男として生を受け、若き日を四海楼(長崎)で中華料理の修業に励み、四十歳の時其の腕前と人柄が認められ「暖簾」分けを頂き、佐

世保の駅前に「四海楼」の名で営業を始められ、御自慢の心暖まるおもてなしと笑顔の絶えない人柄は駅前の顔となった。又、時には「骨董品」集めに余念がなく遠くは平戸方面に足を伸ばした。そんな矢先出身地である五島から、堂崎天主堂が県の文化財の指定(一九七四年)を受け三年後に現在のキリシタン資料館として開設、当時初代浦頭教会主任、野下千年神父様の資料館に掛ける思いに賛同し、大浦氏より「マリア地蔵、カリス、キリシタン鉢、ポケット観音」など貴重なキリシタンの遺品を数多く寄贈して頂きました。更に十五年後に旧司祭館が民俗資料館としてオープンし、数十点の品々を寄贈して頂き資料館充実には大きな貢献をされました。その遺徳に改めまして感謝の意を申し上げ、九十九年の生涯を偲びつつ、永遠の安息をお祈り致します。

秘

跡

《洗礼》

○七月二十日

トマ 木口 夏綺

(父:誠也 母:由紀)

○十一月二十九日

聖ヨハネ 松田 凜空

(父:優希 母:夢花)

《帰天》

○十二月十二日

ヨワンナ 清川 トシ

(九二歳)

○十二月二十六日

アウグステイノ 中尾 喜二

(八八歳)

祝 大運動会

十一月十六日、下五島地区カトリック信徒総出の、運動会が新港運動公園で行なわれました。

当日は、絶好の運動会日和。

過去二回、天候不順の為流れて、十二年ぶりの開催となったとあって、笑顔と元気がグラウンドを飛び出す程のパフォーマンス溢れる運動会になりました。

目的は親睦。ただし、白線で描かれた楕円に入ったら、そりゃ、勝負でしょ。“笑顔の中



にも目元「キラッ！」特に得点競技になると集中力は増していきます。

玉入れでは、「何か、カゴを立てている棒の高さが違うんじゃない？」ちょっとしたかけ引きも入ったりして。

スポーツは真剣さが混って面白さ倍増。そこに、うまいころ合いで、ユーモアが合いの手を打ちます。飴食い競争では、誰か分らぬ程、色白になった若い衆が、子供用の三輪車にきゅう

くつそうに、足腰を折りたたみ「汽車ポッポ」の様に白煙を吐きながら、息を切らして、どうにかゴールにたどりつきます。

昼御飯を迎えたグラウンドは、運動会から学芸会風に変身。井持浦の子供達による「安来節踊り」ひよつとこをかぶった漁師がうなぎに逃げられそうになりながらも、ぐにやぐにや体をひねらせて、どうにかこうにか魚をてごに入れていきます。おひねりをもらった漁師君達、土下座パフォーマンスで、大笑いの



大漁旗を上げて一幕を閉じました。



午後からは、メインの綱引き決勝とリレー。

綱引では、各試合がほとんど真ん中を示す布が動かない持久戦。おたふくの面をかぶった奈留島のパフォーマンス等、応援団も元氣いっぱい花盛り。

最後の締めは、人気一番のリレー。身を乗り出し、大声を上げる観衆の中、走者達のみごとな走りっぷりに場内が弾けました。：なお、優勝は久賀。浦頭もみごとな準優勝でした。

奥浦混声合唱団

24回定期演奏会

十二月七日、例年のとうりクリスマスコンサートが浦頭教会に於いて午後二時より開催された。

長雨が続く中、当日の天気が危ぶまれたが、最高の好天気に恵まれ、満席となり、私達を元気づけてくれる。

奥浦混声合唱団は、オープニングに「森の教会」第一部は楽しい歌と題して「見上げてごらん夜の星を」「峠の我が家」「愛は花、君はその種子」「栄光の架橋」「千羽鶴」と総て四部合唱で歌い練習の時には大変苦労したが、先ず先ずの出来ではなかったかと自負している。

第二部は、お忙しい中に賛助出演をして頂き、先ず、奥浦小学校「気球に乗ってどこまでも」奥浦中学校「ママがサンタにキスをした」「believe」奥浦慈恵院は「まきびと」「We・

Wish・You・a・Merry Xmas」「花は咲く」。



福江少年少女合唱団は「シュベルトのアヴェマリア」

「お部屋をかざるよ」「Winter Wonderland」

お告げのマリア修道会で結成されているコールアンジェラスは「主をたたえ歌え」「感謝の賛歌」「まことの教え」を披露して頂き賛助出演の方々に、改めてお礼申し上げます。

第三部は教会音楽とクリスマスソングを五曲歌い、総べてを終了した。来年も宜しく、すべての人々に感謝。

浦頭での

馬小屋さるく

クリスマス直前の十二月二十三日に、五島の教会と飾り付け（馬小屋）を巡る「馬小屋さるく」の一行十七名が、野下千年神父様とともに浦頭教会を訪れました。

教会での聖歌を披露するため、教会聖歌隊と奥浦混声合唱団が練習を重ね、クリスマス聖歌の調べで交流の一時を過ごす事ができました。



おたより

主の平和

小教区報発行二〇〇号！心からおよろこび申し上げます。

いつも送っていただきありがとうございます。主任神父様をはじめ、スタッフの皆様にはお変わりございませんか。皆様の上
に神の祝福をお祈りいたします。
広島名誉司教 三末 篤實

私にとっても長崎・五島関係の方々になつかしく、心して祈りたいです。島のひかりいつもありがとうございます。

八王子市 純心聖母会

sr 浜口 昌子

お詫び

二〇一号で秘跡の結婚者の名前を間違っていました。

ヨゼフィナマリア柿山直子

ヨゼフィナマリア鍋内 綾

申しわけございませんでした。

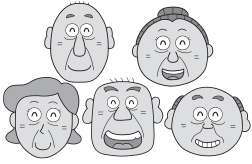
ふるさとだより

浦頭地区でミニ・デイ始まる

ミニ・デイって何ですか？
 早く言えばデイケアのミニ版です。自分たちの健康、足腰の衰えをなるだけ自分たちで維持しようと、何人かで集まって「こけたおれん」体操、おしゃべりやレクレーションをして、健康で歳をとろうと言う事です。

浦頭地区は「かたろう会」と命名し、会長には中里徳美さん（浦頭老人会長）が選ばれました。おくうら夢のまちづくり保健福祉部会長岩崎神父様とそのスタッフ、指導は五島市長寿介護課の方です。

参加費は無料です。今月は十七日と二十四日です。ぜひ参加を。



奥浦さるく

十一月二十三日（日曜日）出

発九時三十分、終了午後一時で行なわれました。参加者は、小学生、中学生、保護者、一般と県立大の学生（男三人、女十人）の参加もあり約百三十名の人が秋晴の中を六方まで歩きました。

初めに木ノ口（潜伏キリシタン墓地）説明は歴史探訪協議会会員の木口榮さん、調査結果による約百五十平方メートルの範囲に七、十基ほどの墓を確認。周辺で見つかった陶器のかけらが、十八世紀後半から十九世紀初めにかけて作られたものであることや、遅くとも十八世紀後期には墓所が築かれたなどの詳しい説明がありました。

南河原口バス停（六方教会）六方入口（富田屋新田開発）について顧問の泉松市先生によって六方の名前の由来や海だったことなどの沢山の説明がありました。六方全体・平家塚を、三班に別れて見学した後、漂着ゴミを回収して帰りました。

♪聖歌隊募集♪

最近、少子化となり子供のいない聖歌隊はさびしい。今こそ大人の出番です。聖歌隊に入会を！

ありがとう

今年は何か新しいものを始めるには、最良の年と言われてます。良い年にしたいものです。今年も多くの方々から御芳志やおたよりの御協力ありがとうございます。

- | | | |
|------|-------|-----|
| 生駒市 | 岩崎 | 京子 |
| 東京都 | 中嶋 | 春代 |
| 八王子市 | sr 浜口 | 昌子 |
| 熊本市 | 匿 | 名 |
| 天草市 | sr 赤尾 | スミエ |
| 名古屋市 | 小幡 | 忠子 |
| 神奈川県 | 浜崎 | 正昭 |
| 長崎市 | 川上 | 正春 |
| 長崎市 | 大田 | 春枝 |
| | | 様 |

編集後記

今年、ひつじ年、私は今だに羊を見たことがない。テレビでは見ますが？羊といえば、聖歌「羊飼いがいて」を思い出します。♪ひつじかいがいて、たくさん羊を飼っていた。ある日その中の一匹が迷子になってしまった。羊飼いは他の羊をおき、その一匹を捜しに出る。もし見つけたらどんなに喜ぶことだろう♪ 羊飼いはキリスト、迷子の羊はわたし、九十九匹を置き去りにして、迷子の一匹を捜しに出る。そこに神の愛がある。決して見すてることがない。今年も去年と同じメンバーで頑張っています。どうぞよろしくお願い致します。

- | | | | |
|----|----|-------|----|
| 木口 | 重憲 | 赤尾 | 淳 |
| 小田 | 洋市 | 竹山 | 巧 |
| 入口 | 信 | 濱崎クニ子 | |
| 江口 | 初子 | 竹山 | 要司 |